

WG224 漁港計画の概要

1. 改訂の背景

200 カイリ排他的経済水域の設定、乱獲など 1990 年代、水産業をめぐる情勢が大きく変化する中で、常設技術委員会が設置した作業部会 (WG18) において、1998 年に「漁港計画 (WG18 report Planning of Fishing Ports)」が策定された。本漁港計画は、当時の最新の知見や技術に基づき策定されたものであり、唯一の国際的な技術基準としてこれまで世界各国の漁港計画において手本となる情報を提供し、効果的な整備の推進や適切な漁港の管理運営に貢献してきてきた。

他方、この 20 年を超える期間において、水産業や漁港をめぐる情勢について次のような変化が見られる。

- ・水産物・食品に対する世界的な需要が増大し、漁業・養殖生産が増加、貿易も拡大
- ・資源管理の強化のため、IQ、ITQ 制度の導入国が拡大
- ・IUU (違法・無報告・無規制) 漁船対策の国際的な動きが拡大
- ・持続可能な漁業・養殖業と品質管理に対する消費の関心の高まり
- ・HACCP システムの導入する各国の動きが活発化
- ・高波、津波、地震などの自然災害が頻発化・甚大化
- ・漁港の管理運営、特に市場での IC、IoT 活用が増大
- ・漁船の大型化、設備の近代化が進行

こうした情勢の変化を踏まえ、日本を含む各国からの提案があり、「漁港計画」の改訂を行うこととなった。新たに設置された WG 224 では、漁港の整備や管理運営に関する最新の技術情報や知見を収集・整理し、有益なものを「漁港計画」に盛り込むこととしている。

2. 参加メンバー

メンバーは 23 名 (MarCom のから指導と相談役の 2 名を含む)。参加国は、英国、デンマーク、アイルランド、アイスランド、スペイン、ノルウェー、チリ、アルゼンチン、豪州、日本、米国、南アフリカ、エジプトであり、欧州が中心、議長は英国である。

2. 会議開催実績・予定

2021 年 2 月にキックオフミーティング (web 会議) を行い、以降これまでに 6 回のプログレスミーティング (web 会議) を開催してきたところ。

引き続き、会議は 3 か月に 1 回の頻度で開催することとしているが、コロナ感染症の状況を見つつ、各国での会議 (in-person 会議) も検討中。

3. 内容の項目（目次）及び執筆分担

1. Chairman's Foreword
2. Composition of the Working Group
3. Terms of Reference
4. Report
 - A. Development of Fishing Port and Resource Planning Policies
漁港整備計画と資源計画戦略
Martin Mannion (UK)
 - B. Planning Principles to Ensure Efficient Investment in Ports and Port Related Infrastructure
漁港及び関連施設への投資に関する基本原則
Jose Angel Iglesias/Ventura (Spain)
 - C. Disaster-Resilient Ports
災害に強靱な漁港
Jose Angel Iglesias/Ventura (Spain)
 - D. Institutional Aspects of a Fishing Port
漁港に関する制度
John Campbell (Ireland)
 - E. Cost-Benefit Analysis
費用対効果分析
Bert Burgers (UK)
 - F. Technology Development for Off-loading, Handling and Marketing of Fish
技術開発
Christian Vrist (Denmark)
 - G. General Guidelines for Auction Halls
市場に関するガイドライン
Masamistu Nakaizumi (Japan)
 - H. ICT, IoT Utilization in Fishing Port Operation
ICT 等の活用
Masamistu Nakaizumi (Japan)
 - I. Maintenance of Fishing Port and Port Facilities
維持管理
Meysam Rad (Australia)
 - J. Training
研修・セミナー
John Campbell (Ireland)
 - K. Environmental Aspects of the Planning of Fishing Ports
漁港計画における環境問題
Keith Mackie (South Africa)
5. Appendix

4. 今後の予定

今夏までには全章の1次ドラフトをまとめる予定。